



佐藤正市先生のご退任を惜しむ

中 田 勇 人*

2025年3月をもって佐藤正市先生は本学を定年退職されます。本稿では先生のご退任にあたり、履歴と業績を紹介し、祝辞を述べさせていただきます。佐藤先生は1978年、駒澤大学経済学部を卒業後、1980年に駒澤大学経済学研究科修士

課程を修了し（経済学修士号取得）、1990年に早稲田大学商学研究科商学専攻後期博士課程を単位取得満期退学された後、1998年に明星大学人文学部経済学科専任講師に着任されました（2001年には学部改組により経済学部経済学科専任講師）。明星大学では主に国際経済学、開発経済学（2014年まで「国際経済論」、「開発経

* 明星大学経済学部教授

済論」)を担当される一方、2010年に経済学部経済学科教授に昇進され、長年の間、明星大学経済学部の研究・教育を支えてこられました。

この間、2003年度に新経済学部改組改編準備委員、2004年度に新経済学部開設準備委員を務められ、経済・経営2学科の経済学部の誕生に尽力されました(2012年に経営学科は経営学部経営学科に改組)。さらに、2013年～2014年度に学科主任、2017年～2018年度に学部長、2015年～2016年度、2019年～2022年度に学部長補佐を務められました。この多難な時期に、佐藤先生は不断に学部・学科の役職者を務められ、坂本秀夫先生(現経済学部名誉教授)などの諸先生と共に経済学部運営の中心として多大な貢献をされました。

佐藤先生の研究者としての専門分野は開発経済学ですが、主要なフィールドはアフリカ、アジアであり、これらの地域を対象とした多くの業績を出されています¹。本稿の執筆にあたり佐藤先生の論文を改めて拝読しましたが、先生の論文の多くが、国際経済の変動に翻弄される中で、いかに途上国が経済発展を追求していくかという問題意識に基づいていると感じました。まさに国際経済学、開発経済学の両方にまたがった業績と言えるでしょう。

個人的な思い出になりますが、私は2003年に明星大学経済学部に就職して以来、約20年にわ

たって佐藤先生から先輩、同僚として様々な面でお世話になりました。特に印象深いのが2006年8月に特別研究費による共同研究プロジェクト「ベトナム経済のグローバル化と制度的変革に関する研究」の一環として、ベトナムのアンザン省、カントー省などでの現地調査でご一緒したことです。佐藤先生は地元で家庭菜園に熱心に取り組まれるなど、農業にも深い造詣をお持ちですが、ベトナムの農業・漁業セクターを調査した際に色々なことを教えて頂いたことを思い出します。

佐藤先生が明星大学を去られることは大変残念ですが、これまでの明星大学経済学部への多大なる貢献に改めて感謝しつつ、今後の益々のご活躍を祈念したいと思います。

1 「アフリカにおける輸入志向工業化に関する一考察—モーリシャスとケニアの事例を中心に—」東京国際大学論叢商学部編第51号, pp.31-46, 1995、「アフリカにおける構造調整政策と地域統合(1)—世銀/IMFのアプローチを巡って—」明星大学経済学研究紀要第32巻第1・2号, pp.16-22, 2001、「アジア通貨危機前後におけるASEAN貿易構造の変化とタイの政策課題」明星大学経済学研究紀要第39巻第2号, pp.31-39, 2008、「タイ経済の成長過程に関するマクロ経済学的分析」明星大学経済学研究紀要第40巻第2号, pp.1-17, 2009(片岡晴雄と共著)、など